

一般

段級

〔奥の細道〕

蜂や蝶といった虫類が砂の色が見えなくなるほど重なりあつて死んでいた。また、西行法師が「道のべに清水ながる、柳かげしばしとてこそたちどまりつれ」と詠んだ柳を訪ねた。その柳は蘆野の里にあり、田のあせ道に残っていた。ここの領主

田の畔に残る。此所の郡守。

清水流るゝの柳は、芦野の里にありて。

真砂の色の見えぬほどかさなり死す。又。

